

市立伊丹病院と近畿中央病院の統合再編による

概要版

基幹病院と健康管理施設に係る診療機能・施設整備計画（案）



令和2年（2020年）12月

本計画は、「市立伊丹病院と近畿中央病院の統合再編に係る基本方針」（令和2年3月策定）に基づいて、統合再編による基幹病院及び健康管理施設に係る診療機能および施設整備計画等の基本的事項を定めたものです。策定にあたっては、「市立伊丹病院・近畿中央病院統合委員会」における意見や部門別ワーキンググループの協議内容等を踏まえ、その方向性の検討を進めてきました。

統合再編基幹病院の診療機能計画（案）では、5疾病、4事業への対応方針等に関し、現段階におけるその方向性を取りまとめ、施設整備計画（案）では、外来、病棟、救急部門といった全ての部門における「基本方針」や「施設計画」等についての詳細を定めています。また、健康管理施設機能計画（案）では、基本方針や施設計画、さらに統合再編基幹病院と一体的な運用を図るための連携・協働方針等を取りまとめています。

診療機能・施設整備計画の策定概要

I

統合再編基幹病院 の診療機能計画

- (1) 基本理念・基本方針
- (2) 5疾病への対応
 - ・がん・脳血管疾患・心血管疾患・糖尿病・精神疾患
- (3) 4事業への対応
 - ・救急医療（感染症対策含む）・小児医療・周産期医療・災害医療
- (4) 診療科目の基本的考え方
- (5) 専門医療のセンター化の推進

II

統合再編基幹病院 健康管理施設 の施設整備方針

- (1) 施設整備のコンセプト
 - ・患者の視点に立った施設整備・医療ニーズへの対応
 - ・健診機能との有機的な連携
 - ・災害・感染症流行下における業務継続 等
- (2) 病床規模
 - ・病床数の想定

III

統合再編基幹病院 の部門別 施設整備計画

- 1. 外来部門 2. 病棟部門 3. 救急部門 4. 手術・中央材料部門
～ 20. 管理部門 **計20部門**
 - ・基本方針

IV

健康管理施設 機能計画

- (1) 基本理念・基本方針
- (2) 運営計画
 - ・健康管理部門・メンタルヘルスケア部門

V

ゾーニングプラン

- ・施設概要
- ・ゾーニングプラン
- ・設計のポイント

I 統合再編基幹病院の診療機能計画

(1) 基本理念・基本方針

▼基本理念

『地域に信頼される 安全で安心な医療の提供と 健康づくりの推進』

▼基本方針

- ① 人権を尊重した医療を行います
- ② 高度で良質な医療を提供します
- ③ 救急医療・災害医療を充実させます
- ④ 健康増進と疾病予防に努めます
- ⑤ 地域との連携を強化します
- ⑥ 人材の育成に努めます
- ⑦ 安定した病院運営を行います

(2) 5疾病への対応

①がん	がん診療連携拠点病院として、チーム医療に基づく手術、化学療法、放射線治療、免疫療法等の適切な組み合わせによる集学的治療の実施、緩和ケア提供体制の充実
②脳血管疾患	超急性期脳梗塞患者への血栓溶解療法・回収療法等の高度で専門的な外科的・内科的治療の提供、SCU(脳卒中ケアユニット)等における24時間365日の入院管理体制の整備
③心血管疾患	心筋梗塞患者への冠動脈形成術等の血管内治療、冠動脈バイパス術等の外科的治療の提供、CCU(冠動脈疾患集中治療室)等における24時間365日の入院管理体制の整備
④糖尿病	糖尿病網膜症、糖尿病性腎症、糖尿病神経障害等の慢性合併症の専門的治療を専門職種チームにより実施、予防治療を行う医療機関との治療計画の共有等の連携体制の強化
⑤精神疾患	認知症疾患における鑑別診断、医療機関等の紹介、問題行動への相談、治療の提供等、認知症患者と家族が住み慣れた地域で安心して生活ができるための支援の実施

(3) 4事業への対応（“へき地医療”を除く）

①救急医療 (感染症対策)	・救命措置を要する重篤な救急疾患に常時対応できるよう、3次救急医療機能を有する「救急センター」を整備するとともに、ドクターカーの整備による病院前救護体制の充実 ・新型コロナウイルス感染症等に対応できる施設整備を救急初療から入院病棟まで実施
②小児医療	入院を要する2次小児救急医療を24時間365日実施可能な提供体制を整備、一般医療機関では対応が困難な診断・検査・治療等の小児専門医療を提供
③周産期医療	MFICU(母体・胎児集中治療室)、NICU(新生児特定集中治療室)等の整備、ハイリスク妊産婦・新生児まで対応可能な、高度かつ専門的で安全・安心な周産期医療を提供
④災害医療	災害拠点病院としての機能を有するとともに、災害初動期において迅速かつ効率的な救護活動ができるよう、専門的な訓練を受けたDMAT(災害派遣医療チーム)を整備

(4) 診療科目の基本的考え方

- ① 市立伊丹病院と近畿中央病院がこれまで地域に提供してきた診療科を継承することを基本とし、診療体制の根幹を担う診療科目のさらなる充実・強化を図る。
- ② 現在不足している診療機能を補いながら、様々な疾患に対して救急医療等の必要とされる医療が提供出来るよう、今後も開院までの間、新たな診療科目の設置を含めた目指すべき方向性の検討を継続し、診療体制の充実に努める。

両病院の現行の診療科目

診療科目	市立伊丹病院	内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、血液内科、精神科・心療内科、糖尿病・内分泌・代謝内科、老年内科、アレルギー疾患リウマチ科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科、乳腺外科、脳神経外科、小児外科、整形外科、形成外科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、歯科口腔外科、麻酔科
	近畿中央病院	内科、循環器内科、呼吸器内科、内分泌内科、免疫内科、消化器内科、腎臓内科、脳神経内科、精神科・心療内科、総合診療科、小児科、外科、脳神経外科、呼吸器外科、整形外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、救急科、歯科口腔外科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科

(5) 専門医療のセンター化の推進

- ① 関連する診療科・多職種が連携すること等により、5疾病を含む包括的な専門医療を提供するセンター化を推進し、地域に必要とされる高度で集学的な治療の提供体制の構築を図る。
- ② 専門医療のセンター化の推進にあたっては、「市立伊丹病院・公立学校共済組合近畿中央病院統合委員会」における議論や診療科の方向性等を踏まえながら、今後開院までの間、現段階におけるセンター化の構想の実現に向けた検討を継続し、“選ばれる病院”となることを目指す。

5 疾病への対応	<ul style="list-style-type: none"> ①オンコロジー（腫瘍）センター ②脳卒中センター ③ハートセンター ④糖尿病・生活習慣病センター ⑤認知症疾患医療センター 	4 事業への対応	<ul style="list-style-type: none"> ①救急センター ②小児地域医療センター ③地域周産期母子医療センター ④DMAT (災害派遣医療チーム)
診療科・多職種連携 による高度で 集学的治療の提供	<ul style="list-style-type: none"> ①人工関節センター ②脊椎外科センター ③呼吸器・アレルギー診療センター ④消化器センター ⑤アイセンター ⑥IVRセンター ⑦遺伝子診療センター ⑧細胞医療センター ⑨不随意運動疾患・てんかんセンター ⑩リウマチセンター ⑪乳腺センター 		

Ⅱ 統合再編基幹病院・健康管理施設の施設整備方針

(1) 施設整備のコンセプト

① 患者の視点に立った施設整備

- ・超高齢化社会を見据え、ユニバーサルデザインの採用やバリアフリーなどに配慮した療養空間を整備
- ・患者の安全を確保するため、トレーサビリティシステムの構築を行うと共に、プライバシーにも配慮

② 医療ニーズへの対応

- ・圏域に不足する高度急性期医療の提供可能な病床の確保と救急医療における受療完結率の向上
- ・地域医療支援病院として専門的医療の充実、がん診療連携拠点病院として治療水準向上・緩和ケアの充実

③ 健診機能との有機的な連携

- ・健診を通じて生活習慣病やがんの早期発見に努め健康増進を目指すとともに、メンタルヘルスケアを提供
- ・疾病予防ニーズへ細やかに対応するため、医療機能と健診機能を有機的に結びつける施設機能

④ 災害・感染症流行下における業務継続

- ・大規模災害時に災害拠点病院として機能するよう、自家発電などのライフラインのバックアップ体制を確保
- ・感染症流行下における通常診療機能の確保と、パンデミック発生時において必要となる医療資源の備蓄等

⑤ 働きやすい職場

- ・部門間関連、効率的な動線、清潔不潔や感染区分などの明確化等、高度医療を支えるゾーニング計画
- ・職員がリフレッシュできる空間づくりによる働きやすい職場環境

⑥ 環境への配慮

- ・周辺環境や景観保全に配慮するとともに、再生可能エネルギーの積極的導入による環境負荷低減

⑦ 将来に向けた成長と変化への対応

- ・医療現場におけるデジタル化、ネットワーク化や新たな医療機器の導入等に備え、将来の変化に対応できる柔軟性や拡張性に配慮

⑧ 経営の視点

- ・ライフサイクルコストの考慮、ビルエネルギーマネジメントシステム導入によるランニングコストの低減

(2) 病床規模

病床数の想定
602床

集中治療病床（救急センター）		20床
	E-ICU・CCU（集中治療室・冠動脈疾患集中治療室）	4床
	E-HCU（高度治療室）	16床
集中治療室病床（病棟）		34床
	G-ICU・CCU（集中治療室・冠動脈疾患集中治療室）	4床
	G-HCU（高度治療室）	12床
	SCU（脳卒中ケアユニット）	3床
	MFICU（母体・胎児集中治療室）	3床
	NICU（新生児特定集中治療室）	6床
	GCU（新生児治療回復室）	6床
緩和ケア病床		20床
その他一般病床		528床
合 計		602床

※病床数の想定は現時点のものであり、今後国の政策や医療環境の変化等を踏まえ変更することがある。

Ⅲ 統合再編基幹病院の部門別施設整備計画

部 門	基本方針
1. 外来	<ul style="list-style-type: none"> ・関連診療ブロック制、ユニバーサルレイアウトやフリーアドレスの導入による環境整備 ・プライバシーやアメニティへの配慮、感染症対応機能の整備、動線最適化と利便性向上
2. 病棟	<ul style="list-style-type: none"> ・1フロアあたり4看護単位程度を想定、患者・職員の動線を最適化、高いセキュリティ機能 ・感染症対応機能の整備、質の高い緩和ケア、ホスピタリティの重視、災害対応機能
3. 救急	<ul style="list-style-type: none"> ・3次救急機能を有する救急センター、感染症流行下・パンデミック時に対応可能な施設整備 ・災害拠点病院として被災患者受入、広域的災害救急医療、DMAT、BCP（業務継続計画）
4. 手術・ 中央材料	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急手術対応可能な体制を構築し、手術需要・手術方法の高度化に対応、院内感染防止 ・院内の再生滅菌器材を一元管理、安全良質な滅菌器材の迅速提供、日帰り手術需要対応
5. 臨床工学	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機器の一元管理による稼働率の向上と、適切な運用による安全で質の高い医療提供 ・高度専門化する医療機器等の操作・保守・管理、運用に必要な情報発信・啓蒙
6. 放射線	<ul style="list-style-type: none"> ・高度な画像検査機器を整備し、高度専門医療への対応機能を確保 ・地域に求められる放射線治療機能の整備、がん治療の拠点的功能の確保
7. 内視鏡	<ul style="list-style-type: none"> ・各専門職機能を集約したチーム医療と高度医療機器による最先端技術の提供 ・診療センターとして整備し、安全な検査・治療技術の提供と患者サービスの向上
8. 臨床検査	<ul style="list-style-type: none"> ・検査の迅速化、災害時における検査体制の構築、高度専門医療に対応する体制整備
9. 薬剤	<ul style="list-style-type: none"> ・有効性と安全性を確保し薬剤師の専門性を活かした診療支援、トレーサビリティシステム構築 ・患者に最適な化学療法、緩和薬物療法の提供や退院後における薬剤師地域連携の推進
10. リハビリ テーション	<ul style="list-style-type: none"> ・早期治療、早期退院に貢献するため、各疾患におけるガイドラインを遵守し、急性期を中心としたリハビリテーションを実施、多職種連携によるチーム医療体制の充実、地域への情報提供
11. 血液浄化	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で質の高い血液浄化療法を提供し、高度急性期医療を支えるセンターとしての機能を整備し、地域の医療機関と連携を図り、適切な時期に安全な血液浄化療法を導入
12. 栄養管理	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な栄養管理、栄養指導を通して患者治療に貢献、衛生管理のもと安全な食事を提供
13. 患者支援	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携窓口として地域包括ケアの一翼を担い、様々な案内・相談窓口の一次的機能を集約、がん相談支援センターの設置による支援機能を充実、ボランティアの受入・調整等
14. 医療安全	<ul style="list-style-type: none"> ・患者、家族及び職員等の安全を確保するための医療安全管理の徹底
15. 感染対策	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症流行下等における医療体制整備のための継続的な対応訓練・感染管理の徹底
16. 研究	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に研究を遂行できるよう管理・支援し、医薬品、医療機器等の治験を含む臨床試験を適切に実施するとともに、クリニカルリサーチセンターを設置し、臨床研究と治験を統括管理
17. 研修	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成・教育研修機能を有する臨床研修センターを設置、図書室の設置による医師・医療従事者の育成と地域医療への貢献、多職種での研修が可能なスキルラボセンターの整備
18. 診療情報	<ul style="list-style-type: none"> ・診療情報の適切管理、迅速かつ正確なデータ収集、公衆衛生の質向上に資する情報提供 ・院内がん登録情報の活用・分析による医療および経営の質の向上、適切な情報公開
19. 医療情報	<ul style="list-style-type: none"> ・高度で良質な医療を提供し続けるために必要な医療情報システムの構築、情報資産の機密性・完全性・可用性を確保しながら適切に管理、患者等利用者のサービス向上
20. 管理	<ul style="list-style-type: none"> ・院内外の環境の変化に適切・速やかに対応し健全な経営基盤を確立、労働生産性を向上 ・健康で働きやすい職場環境、施設環境を整備、持続可能な病院運営の実現、人材育成

IV 健康管理施設機能計画

(1) 基本理念・基本方針

▼基本理念

『職域と地域に応える健康づくり』

▼基本方針

- ① 疾病予防と健康の保持増進に努めます
- ② 疾病の早期発見に努めます
- ③ 疾病予防に向けた啓発活動を行います
- ④ 疾病予防に関する知識と技術の向上に努めます

(2) 運営計画

- ① 公立学校共済組合員の体と心の健康の保持増進、疾病予防に資するため、組合員等を対象とした健康管理事業、メンタルヘルス事業を実施する。
- ② 地域の方々の体と心の健康の保持増進、疾病予防に資するため、地域住民を対象とした市民向け健診、地元企業を対象とした企業健診等を実施する。
- ③ 快適な環境の下、優れた健診を効率よく提供し、受診者の病気の予防、早期発見を目指す。
- ④ 疾病予防に向けた啓発活動を幅広く行うとともに、それに伴い必要とされる知識の習得と技術の向上に努める。

ア) 健康管理部門

利用者	実施内容
・公立学校共済組合員 ・地域住民 など	・人間ドック(1日ドック・ホテルドック) ・器官別検診 ・健診(市民健診、がん検診、企業健診) ・特定健康診査、特定保健指導 ・生活習慣病予防健診 など

※ 健診等は予約制とする。※ ドック受診者には食事を提供する。

※ ホテルドックは、民間宿泊施設との提携による対応を行う。

イ) メンタルヘルスケア部門

利用者	実施内容
・公立学校共済組合員 ・地域住民 など	・こころの健康相談 ・ストレスチェック ・職場復帰支援 など

V ゾーニングプラン

(1) 1階ゾーニングプラン・設計のポイント

○ 部門間関連にもとづく現段階におけるゾーニングプランの検討

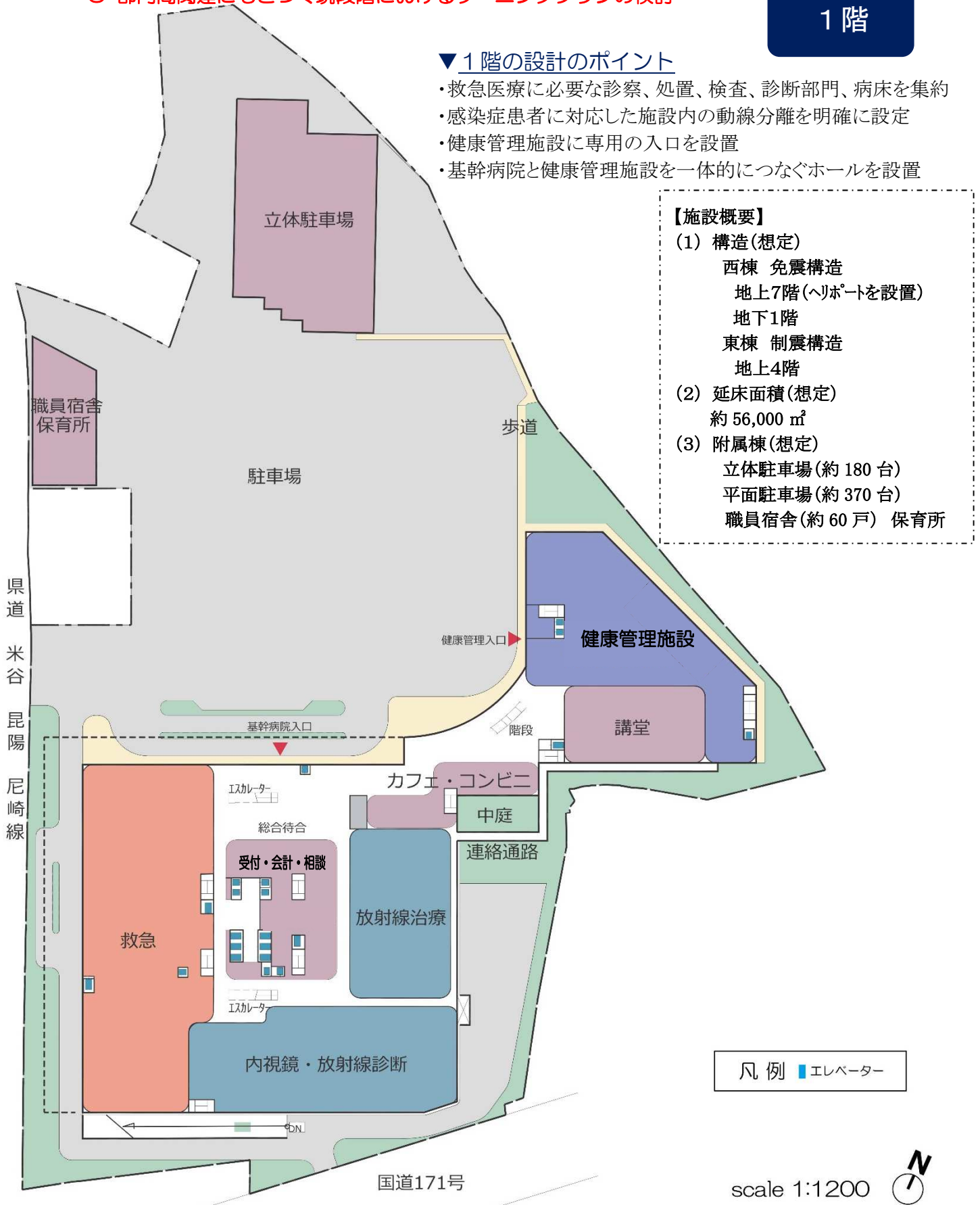
1階

▼1階の設計のポイント

- ・救急医療に必要な診察、処置、検査、診断部門、病床を集約
- ・感染症患者に対応した施設内の動線分離を明確に設定
- ・健康管理施設に専用の入口を設置
- ・基幹病院と健康管理施設を一体的につなぐホールを設置

【施設概要】

- (1) 構造(想定)
- 西棟 免震構造
地上7階(ヘリポートを設置)
地下1階
 - 東棟 制震構造
地上4階
- (2) 延床面積(想定)
約 56,000 m²
- (3) 附属棟(想定)
- 立体駐車場(約 180 台)
 - 平面駐車場(約 370 台)
 - 職員宿舎(約 60 戸) 保育所



凡例 ■エレベーター

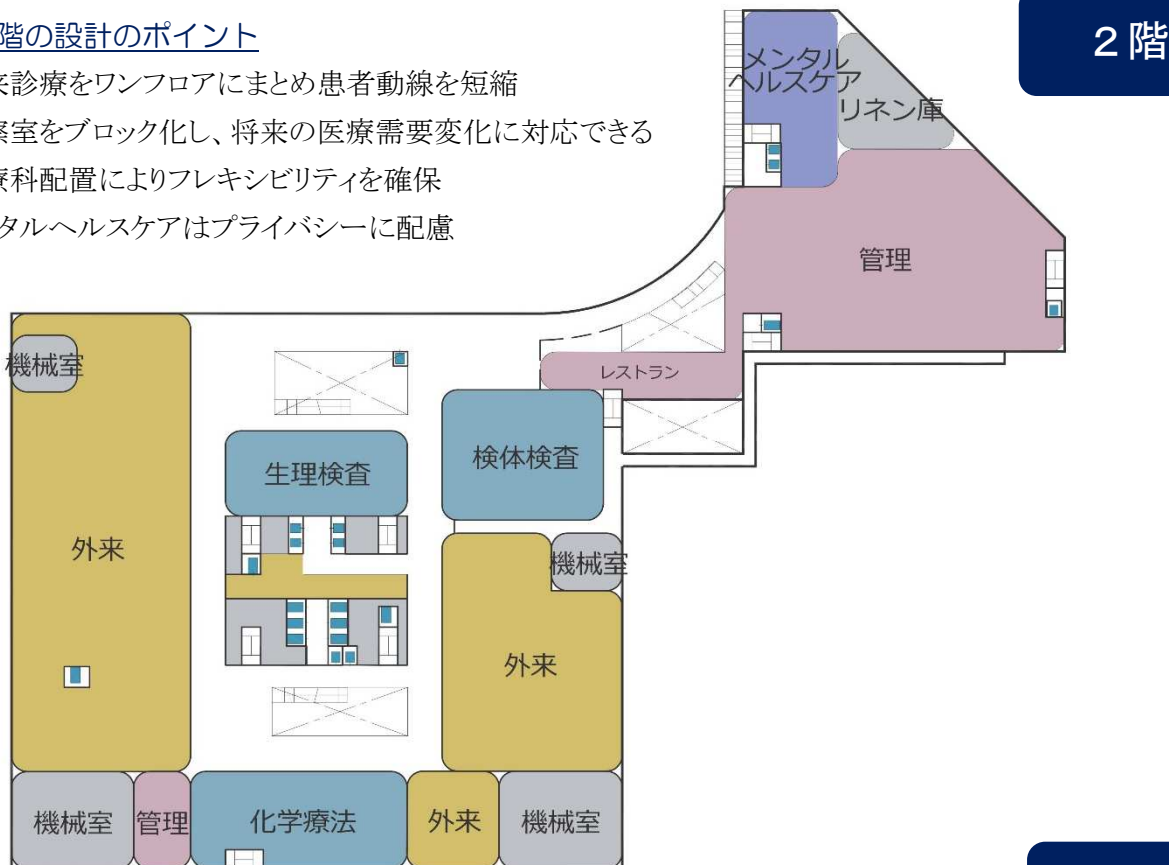
scale 1:1200



(2) 2階・3階ゾーニングプラン・設計のポイント

▼2階の設計のポイント

- ・外来診療をワンフロアにまとめ患者動線を短縮
- ・診察室をブロック化し、将来の医療需要変化に対応できる診療科配置によりフレキシビリティを確保
- ・メンタルヘルスケアはプライバシーに配慮



▼3階の設計のポイント

- ・ロボット支援手術やハイブリッド手術室（手術台と心血管X線撮影装置を組み合わせた手術室）など高度で低侵襲な手術に対応し、感染制御に適した手術室の設置
- ・手術後を中心に重篤な患者に対応するため、集中治療室を手術室に隣接して配置
- ・管理、スタッフエリアを集約し、セキュリティを強化



凡例 ■エレベーター

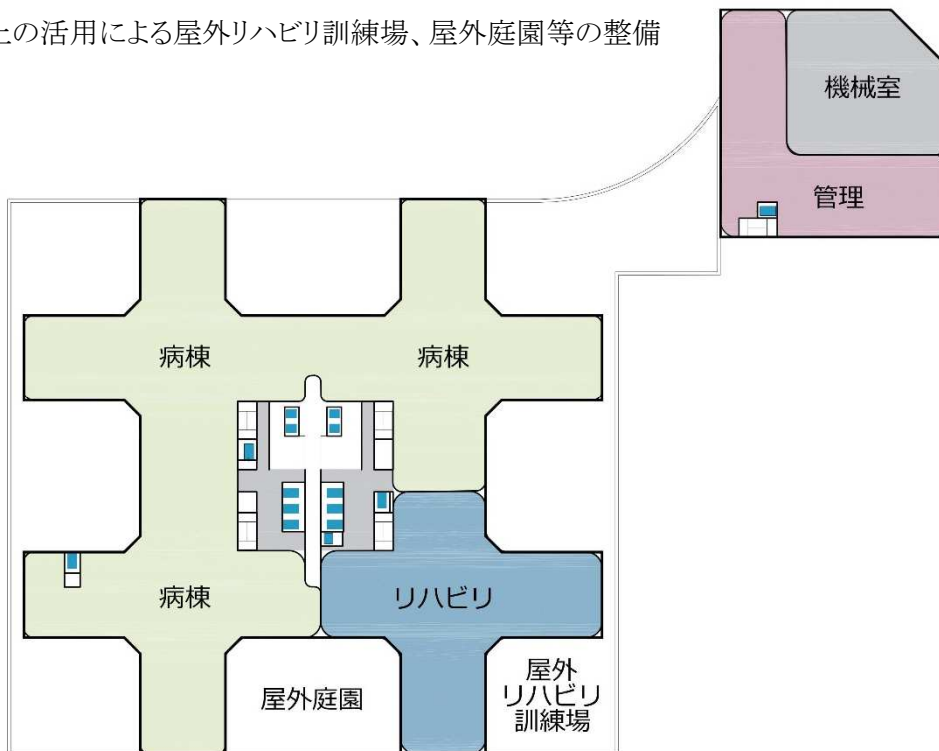
scale 1:1200



(3) 4階～7階ゾーニングプラン・設計のポイント

▼4階の設計のポイント

- ・入院患者からアクセスしやすい4階にリハビリを配置
- ・屋上の活用による屋外リハビリ訓練場、屋外庭園等の整備

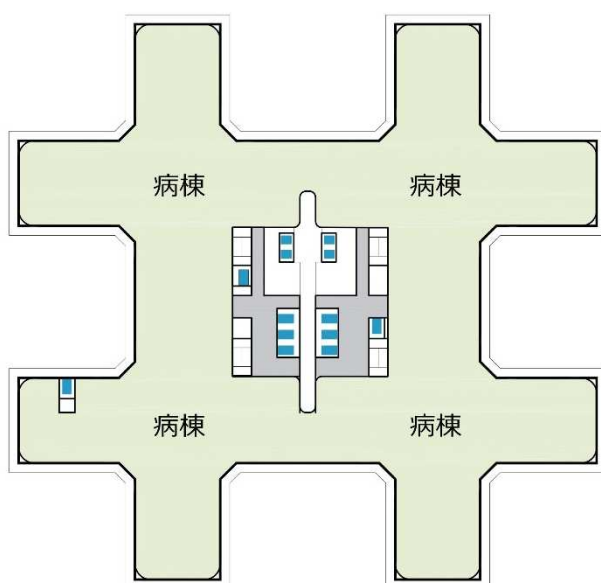


4階

5～7階

▼5～7階の設計のポイント

- ・看護スタッフの連携拠点を中央部に集約した4看護単位の一般病棟
- ・スタッフステーションから病室への動線を短縮し、看護しやすいウイング型病棟
- ・見やすくわかりやすい空間構成により、患者にとって安全安心の病棟管理
- ・一般病床の個室割合40%を想定
- ・感染症流行下における感染制御に対応した病床整備



凡例 ■エレベーター

scale 1:1200

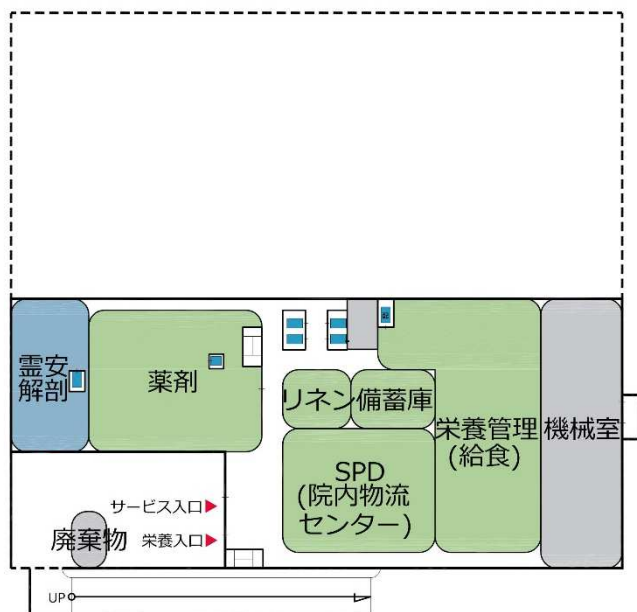


(4) 地下1階、塔屋階、HP階ゾーニングプラン・設計のポイント

地下1階

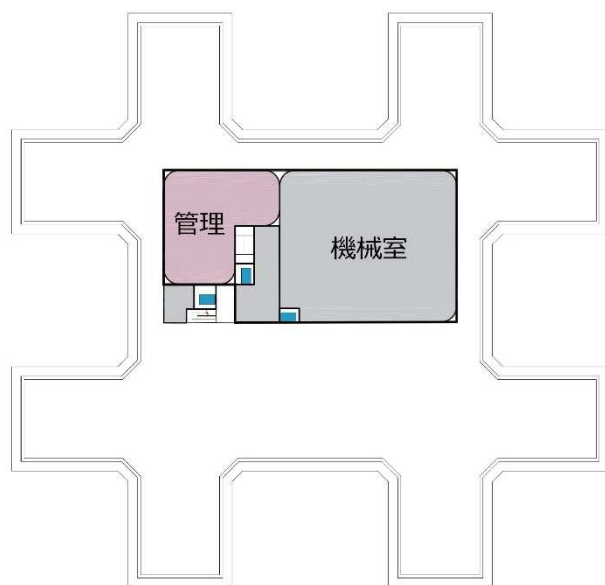
▼地下1階の設計のポイント

- ・供給部門を集約し、セキュリティを確保するとともに物流動線を最適化
- ・清潔ゾーンと汚染ゾーンの分離に配慮した搬出入動線
- ・防水扉・防水シャッターによる集中(ゲリラ)豪雨時の浸水対策を検討



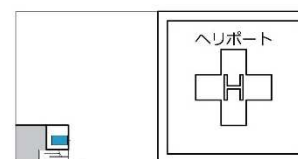
塔屋階・HP階

▼塔屋階



▼ヘリポート階の設計のポイント

- ・災害用ヘリポートを整備



凡例 ■ エレベーター

scale 1:1200 